



栄ファーム

オーナー	栄運輸工業株式会社
水田面積	18.4アール
保証量	玄米828kg
形態・品種	特別栽培コシヒカリ
ブランド	「海」
Co2回収	約1840kg

生産者
三上惇二



7月は豪雨の後、雨の降らない日々が続きました。こちらは岡山・広島の被害と比べると些細な程度で済みとても安心いたしました。わずかですが田んぼのケタが崩れたり、ずれたりしましたがお米作りには影響はありません。一転、豪雨の後には雨が全く降らない日々が続き山からの水は日に日に減っていきましたが山の深さ・保水力はすごくこちらも大丈夫でした。今年はいよいよ一層熱中症に気を付けながら草刈りをしています。

7月の作業内容と稲の状態

電気柵の設置

毎年イノシシの出現回数や範囲が広がっているように感じます。成長前の稲には目もくれず、美味しくようになる頃を見計らってやります。早めに対策するほかないため、6月末から設置を開始していきますが、範囲が広いとかなりの重労働となります。



電気柵の設置

中干し（なかぼし）

田んぼの水を抜いて完全に土の表面を乾かします。水を切れば稲に水分・栄養がいきませんので過剰に分けつ（枝分かれ）を抑えることができます。また土の表面が固まると収穫時のトラクターを安定して走らせることができるメリットがあります。



中干しをしている水田

出穂（しゅつすい）

稲の成長において穂のもととなる幼穂（ようすい）が葉の茎のような筒状っほいの中で発達し、それが表に出てくることを出穂と言います。ここから開花・受精し、その後玄米の長さ、幅、厚みが順番に決まっていく大事な時期に入ります。



出穂（赤点線枠が穂がでてきた状態）



稲の花



7月下旬の稲